

さらなる  
継続の

省燃費運転の



毎日の心がけが  
大きな効果に

11月は「エコドライブ推進月間」です。これは警察庁、経済産業省、国土交通省、環境省で構成するエコドライブ普及連絡会が提唱したもので、シンポジウムやイベントの開催などを通じて省燃費運転の推進を図っています。

そこで今回は、多くの運送事業者で取り組まれている省燃費運転活動による効果のみをみていくとともに、活動に対する経営者・運行管理者の心構え、運転のコツまでを紹介していきます。

## I. 環境・安全・経済に大きな効果

**ト** ラック輸送は国内貨物の90%以上を担い、経済活動や市民生活を支えています。しかし一方で、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)、NO<sub>x</sub>・PMの排出をはじめ、環境に負荷を与えているのも事実です。

環境保全のためにできる代表的な取り組みが、「省燃費運転活動」です。この活動については、「地球温暖化に対する関心の高まり」や「燃料価格の高騰」などの経験を経て、多くの事業者において高いレベルで取り組まれています。すでにご存じと思われませんが、省燃費運転には環境保全(CO<sub>2</sub>、NO<sub>x</sub>・PM排出量の削減)のほか、「事故の防止」や「燃料コストの削減」といった効果もあり、継続した取り組みが不可欠です。運転中のちょっとした心がけでできることもあり、その積み重ねが大きな効果として表れます。

### 省燃費運転の効果

**地球環境の保全**  
・地球温暖化や大気汚染の防止

**安全性の向上**  
・穏やかな運転による、交通事故の減少

**経済性の向上**  
・燃料費の節約  
・パーツの摩耗が減り、車両維持費の低減  
・交通事故が減り、保険料低減

出典：公益財団法人 交通エコロジー・モビリティ財団  
「トラック・バスのエコドライブテキスト」

## II. 全スタッフが一体となって省燃費運転活動を推進

経営者・運行管理者が強い信念を持つ

**省** 燃費運転には、様々な効果があると理解していても、なかなか定着しないという声も聞かれます。省燃費運転活動は、ドライバーのこれまでの運転方法を変えることになり、不平や不満の声が上がることから、途中で断念する運送事業者も少なくないようです。しかし、経営者や運行管理者が、日頃からドライバーとコミュニケーションを図るとともに、設定した目標に向かって教育することで意識を変えることは可能です。

ドライバーの不平や不満を軽減し、協力を得る

ためには、まずは経営者や運行管理者が省燃費運転の必要性をしっかりと認識し、「必ずこの活動を成功させる」という強い信念を持つことが大切です。例えば、単に会社の利益向上のためだけに経費削減を目指して活動を始めても、ドライバーの共感を得ることはできないでしょう。経営者・運行管理者は、活動を通じて『クリーンな走りや地球環境に貢献する』、『事故を減らしドライバーの安全を守る』、『利益を出して社員の雇用を守る』といった気持ちを持って取り組むことが重要です。

ドライバーに対する思いやりとフォローを大切に

**省** 燃費運転活動は、ドライバーにとってストレスを感じるものです。活動を定着させるためには、経営者・運行管理者が、不平や不満にもしっかりと耳を傾け、フォローし、ドライバーのやる気を引き出してあげることが大切です。

最初は大変かもしれませんが、運行管理者はドライバーと一緒に取り組んでいく姿勢を示していきましょう。下記に、活動を始めることで出てくるドライバーの不安やストレス、そのフォロー例をあげましたので参考にしてみてください。

### 事例 省燃費運転活動を始めると…



スピードオーバーで事故を起こしたり荷物を破損したら、到着が遅れたところの責任ではありません。経営者・運行管理者はそのことをしっかりと認識し、荷主企業に対する責任は自分がかかるという心構えをしましょう。

出典：神奈川県「経営者・運行管理者のためのエコドライブ推進マニュアル」

### Ⅲ. 実践! 省燃費運転のコツ

**省** 燃費運転は、車両の特性を知ることによって効果が表れます。ここでは、ドライバー指導の際に活用できる運転のコツを紹介。ひとつひとつ、積み重ねていくことで、大きな効果につながります。

#### ① おだやかな発進・加速

急発進・急加速は、必要以上にエンジンの高回転域を使うことになり、通常の走行に比べて著しく燃費が悪くなります。「ふんわりアクセル」で、ゆっくり加速を心がけましょう。

ここが、  
運転の  
コツ!

加速時のアクセルの踏み込み量は  
大型車なら**70~80%程度**  
中・小型車なら**50%程度**

効果

- ・燃料消費量とCO<sub>2</sub>排出量を削減
- ・急発進などによる荷痛み、荷崩れを防止
- ・タイヤの摩耗を減少させ車両維持費を低減
- ・エンジン音を抑制

#### ② 予知運転とエンジンブレーキの活用

ディーゼル車の特性として、走行中にアクセルペダルを離しエンジンブレーキの状態になると、エンジンへの燃料供給はカットされ無噴射状態になります。この特性を活かせる場面が予知運転です。減速や停止する場合は、信号の変化や前方車両の動きに注意しながら、早めにアクセルから足を離し、エンジンブレーキを積極的に活用しましょう。



ここが、  
運転の  
コツ!

エンジンブレーキを使った  
惰力走行なら、燃料は**カット**

効果

大型トラックで、  
1回あたり**20~25cc**の燃料を節約

#### ③ 早めのシフトアップ

シフトアップは早めに行うことで、エンジンの回転数が抑えられ燃料消費が改善されます。エンジン回転計にあるグリーンゾーンは、適正な回転数の使用範囲を示しており、この範囲での運転を心がけてください。

ここが、  
運転の  
コツ!

シフトアップは、エンジン回転計にある  
**グリーンゾーン内で早めに**

効果

高速段のギヤを使用すればエンジン回転数が  
抑えられ、燃費消費を改善

#### ④ 一定速度で走行

波状運転(加速と減速を繰り返す運転)は燃費を悪化させます。車間距離を詰めて前方車両に連なって走ると、波状運転になる傾向があります。余裕を持って一定の速度を維持しましょう。

ここが、  
運転の  
コツ!

アクセルに足を軽く乗せ、  
一定の踏み込みを維持しましょう

効果

約**10%**の燃費悪化を防止  
(速度が±5km/h変動する波状運転をやめた場合)

#### ⑤ アイドリングの抑制

荷物の積み下ろしや、待機、休憩など車両をしばらく停止させる場合は、必ずエンジンを切りましょう。アイドリングは、燃料消費の増加だけでなく、騒音や大気汚染の原因となり、周囲にも迷惑をかけてしまいます。

ここが、  
運転の  
コツ!

アイドリングを極力避け、  
暖房の場合は蓄熱マットなどを  
活用

効果

1時間あたり 約**10%**の燃料消費を防止  
1時間のアイドリングでエンジン排気量の約10%の  
燃料を消費します。  
(大型トラック(E13Cエンジン)なら、約1.3L消費)